

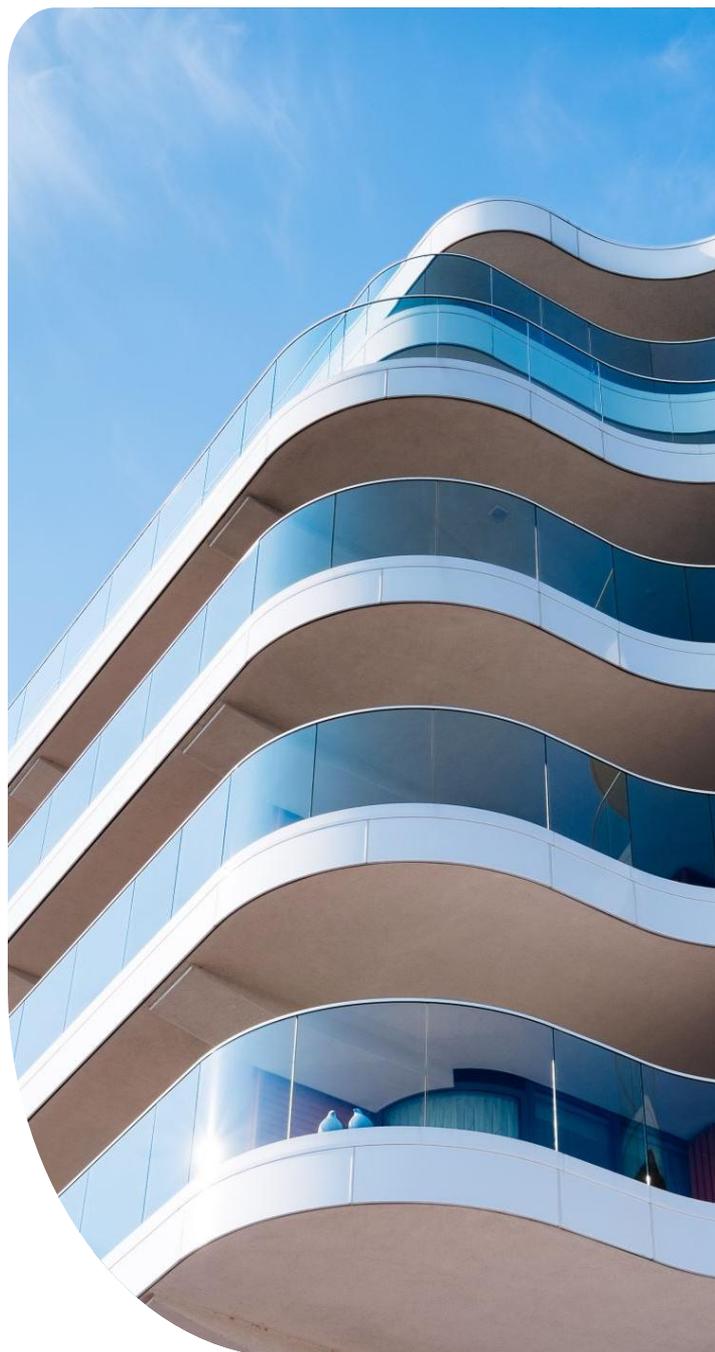
News Insight & Recap

2026年1月



続きを読む

注：以下の内容は、特定の個人または法人の状況に対応することを目的としたものではありません。また、本書類の受領日時点で情報が正確であること、あるいは今後も引き続き正確であることについて、何ら保証するものではありません。



GRANT THORNTONの洞察

ベトナムは2026年を総じて良好なマクロ経済の兆しとともに迎えました。これは、継続的な政策支援や堅調な工業活動が反映されあものです。製造業の景況感拡大基調を維持し、FDI実行額は過去5年間で最も高い1月の水準となりました。総貿易額も大きく増加した一方で、企業が生産投入材を積み増したことから輸入の伸びが輸出を上回り、一時的な貿易赤字に転じました。テト（旧正月）に伴う消費増加の影響がありながらも、インフレは抑制的に推移。また、国際観光客の到着数は月次ベースで過去最高を記録し、サービス部門の回復を後押ししました。総じて、ベトナムは健全なマクロ経済基盤のもとで年初をスタートしたものの、貿易動向やFDI誘致を巡る先行きには依然として不透明感が残っています。

年初の勢いは概ね堅調である一方、ベトナムが掲げる成長目標を達成するためには、どの程度の進展が求められるのかに関心が高まっています。外部機関は2026年の成長率を6~8%程度と予測しているのに対し、政府は10%という高い目標を掲げており、このギャップは二桁成長の実現に向けて政策実行力および構造高度化の双方で相当の努力が求められることを示しています。

先行きを見据えると、公共投資の執行は引き続き主要な政策手段となり、2025年の力強い執行実績を背景に、新たなサイクルにおけるインフラ整備と投資環境の維持を支えると見られます。加えて、ベトナムは生産性および付加価値創出の強化を目的とした能力向上型の施策を積極的に推進しています。ホーチミン市における国際金融センター（IFC）の設立は、資金調達チャネルの拡大と世界の金融市場との統合強化につながる重要な制度的節目と位置付けられています。同時に、半導体および先端製造エコシステムへの参画強化、投資環境の改善、輸出連携の多様化に向けた取り組みも進展しており、より高品質で能力主導型の成長への移行を示唆しています。

こうした動きを背景に、インフラ能力の拡充、金融市場の深化、技術高度化が、2026年に向けたベトナムの成長軌道を形作る新たな柱として位置付けられつつあります。



続きを読む

1. 2025年の公共投資実行額、過去5年で最高水準を記録

財務省（MoF）によると、2025年のベトナムの公共投資実行額は858.6兆ドン（約330億米ドル）に達し、2021～2025年間で最高水準を記録するとともに、首相が割り当てた計画の94.8%に相当しました。これは2024年比で234.1兆ドン増加しており、自然災害や一部地域における事業実施の遅延といった課題がある中でも、各省庁および地方政府がインフラ支出の加速に一層注力したことを反映しています。2025年は中期公共投資計画の最終年度にあたることから、当局は分権化の強化、プロジェクト実行能力の向上、ならびに規制上のボトルネック解消を通じて実行率を加速させる方針を強調しました。政府は引き続き公共投資を主要な成長ドライバーとして位置付けており、特に2026年に少なくとも10%の経済成長を目標とする中で、その役割は一段と重要視されています。

(出展: Vietnamnews)



続きを読む

2. AMRO、2026年のベトナム経済成長率予測を7.6%に引き上げ

ASEAN+3 Macroeconomic Research Office (AMRO) は、2026年のベトナムのGDP成長率を7.6%と予測しており、域内全体の成長率が約4%へと減速すると見込まれる中、ASEAN+3地域において最も高い成長率の一つになると評価しています。これは2025年10月時点の見通しから0.2ポイントの上方修正となります。見通し改善の背景には、テクノロジー関連輸出の底堅さ、先端電子機器、電気自動車、デジタルサービス分野への外国直接投資の継続的流入、ならびにマクロ経済政策の支援的スタンスがあります。2025年に8.02%という堅調な成長を達成したことを受け、他の機関も予測を引き上げています。

Standard Charteredは2026年の成長率を7.2%と予測し、United Overseas Bank (UOB) は7.5%と見込んでいます。一方、World Bankは2026年に6.3%、2027年に6.7%の成長を予想しており、成長は持続するものの、徐々に緩やかになるとの見方を示しています。

(出展: Vietnam Investment Review)

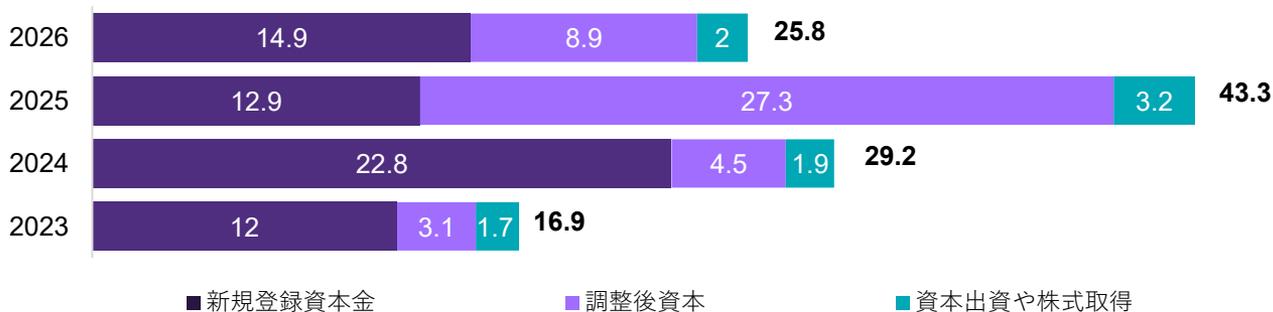


続きを読む

3. 2026年初のベトナムFDI動向は強弱入り混じる展開

2026年1月のベトナムへのFDI流入額は25.8億米ドルとなり、登録資本ベースでは前年同月比40.6%減少しました。一方、実行額は16.8億米ドルと前年同月比11.3%増加し、過去5年間で最も高い1月の水準を記録しました。これは、表面的な流入額が弱含む中でも、既存プロジェクトの着実な実行が継続していることを示しています。新規認可案件数は349件と前年同月比23.8%増加し、新規登録資本も14.9億米ドルと15.7%増加したことから、基調としての投資モメンタムは安定的に維持されていることがうかがえます。

2023年から2026年にかけてのベトナムへの1月のFDI資本の内訳（単位：億米ドル）



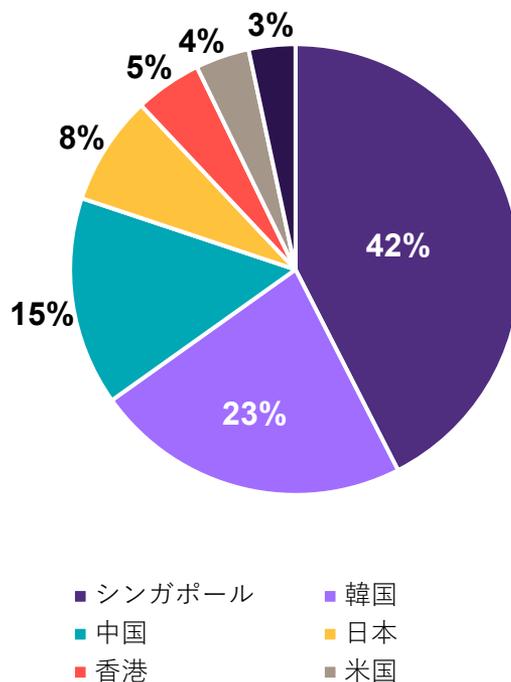
続きを読む

(出展: Vietnam Economic Times)

3. 2026年初のベトナムFDI動向は強弱入り混じる展開（続き）

1月は、新規登録資本および追加資本の合計ベースで見ると、製造業が引き続きFDIの最大の受入先となり、18.8億米ドルを誘致して総流入額の79.2%を占めました。不動産分野が2.455億米ドル（10.3%）でこれに続きました。国・地域別では、シンガポールが10.1億米ドルで最大の投資元となり、次いで韓国（5.39億米ドル）、中国（3.56億米ドル）、日本（1.87億米ドル）、香港（1.14億米ドル）の順となりました。このことから、FDI流入は引き続き域内投資家が主導していることが示されており、米国は0.92億ドルでこれに続きました。

2026年1月のベトナムへのFDI登録資本金の出資元（単位：百万米ドル）



(出展: Vietnam Economic Times)



続きを読む

4. 輸入の伸びが輸出を上回り、2026年1月のベトナム貿易は大幅拡大

2026年1月のベトナムの貿易総額は881.6億米ドルとなり、前年同月比39%増と大きく拡大しました。一方で、同月は輸入の急増が輸出の伸びを上回り、貿易収支は赤字となりました。輸入は機械、電子機器、生産投入材に対する需要の強さを背景に449.7億米ドル（前年同月比49.2%増）へと急増したのに対し、輸出は431.9億米ドル（同29.7%増）と比較的緩やかな伸びにとどまりました。この結果、ベトナムは約17.8億米ドルの貿易赤字を計上しました。これは、企業が今後の輸出サイクルに備えて投入材の在庫を積み増し、生産能力の拡大を進めていることを示唆しています。



881.6億米ドル
総貿易額

17.8億米ドル
貿易赤字

輸入
449.7億米ドル

輸出
431.9億米ドル



続きを読む

(出展: VietnamPlus)

5. 2026年の輸出目標達成はベトナムにとって課題

ベトナム政府は、2026年の輸出額目標を5,460～5,500億米ドルとする意欲的な目標を掲げており、年間成長率15～16%の達成を目指しています。これは、輸出額が4,750億米ドルと過去最高を記録した2025年に続くものです。新たな目標を達成するためには、商工省（MoIT）の試算によれば、月平均で450～460億米ドル程度の輸出が必要となります。しかし、これは大きなハードルとなる可能性があります。2025年に月間輸出額が440億米ドルを超えたのは12月の一度のみであり、多くの月は420～430億米ドル台にとどまっていたためです。こうした課題に対応するため、専門家は、数量拡大型の成長や米国・中国など主要市場への集中への依存を低減しつつ、より質を重視した戦略へ転換する必要があると指摘しています。具体的には、ベトナムが締結している自由貿易協定の活用強化、国内付加価値の向上、越境電子商取引などのデジタル輸出チャネルの拡大を通じた輸出構造の高度化が求められています。

(出展: VietnamPlus)



続きを読む

6. 製造業PMIは52.5へやや低下も、2026年の力強い年初を示唆

S&P Globalによると、2026年1月のベトナム購買担当者指数（PMI）は52.5となり、12月の53.0からわずかに低下したものの、拡大・縮小の分岐点である50を明確に上回り、7か月連続で事業環境の改善が続いていることを示しました。新規受注の増加や雇用の拡大を背景に生産の伸びは加速し、企業の景況感も22か月ぶりの高水準へと上昇しました。一方で、需要の強さに伴う投入コストの上昇により、製造業者は持続的なインフレ圧力に直面しており、販売価格の上昇率は2022年4月以来の速いペースとなりました。

ベトナムの購買担当者指数（PMI）



(出展: S&P Global)



続きを読む

7. テト需要を背景に、1月のベトナムCPIは小幅上昇

2026年1月のベトナム消費者物価指数（CPI）は、テト（旧正月）前の季節的な消費の強さを主因として、前月比**0.05%**、前年同月比**2.53%**の小幅上昇となりました。前月比でのCPI上昇は、主に住宅・建設資材グループ（**+0.7%**）にけん引されたもので、年末に向けた住宅の改修やメンテナンス需要の高まりが背景にあります。祝祭シーズンに伴う購買需要の増加により、飲料・たばこ（**+0.58%**）、家庭用電化製品（**+0.26%**）、衣料・履物（**+0.25%**）の価格も上昇しました。また、外食費の**0.44%**上昇や豚肉価格の上昇に支えられ、食料品および飲食サービスは**0.2%**の上昇となりました。一方で、燃料価格の低下を受けて運輸費は**2.32%**と大きく下落し、インフレの抑制に寄与しました。総じて、1月の物価動向は国内消費パターンに対するテトの広範な影響を反映したものとなりました。

(出展: Vietnamnews)



続きを読む

8. オランダの半導体大手ASML、ベトナムでの事業拡大を検討

オランダの半導体製造装置メーカーである**ASML**は、ベトナムにおけるサプライチェーンおよび事業拡大の可能性を検討しており、同国の半導体産業にとって注目すべき動きとなっています。2026年1月に**Pham Minh Chinh**首相と行われた会合において、**ASML**の**Eduard Stiphout**副社長は、研究開発（**R&D**）拠点や研修センターの設立を含む正式な拠点設置への関心を示しました。この動きは、**Samsung**、**Intel**、**NVIDIA**といった世界的企業を含むグローバルな半導体サプライチェーンにおけるベトナムの存在感が高まっていることを裏付けるものです。政府は、**ASML**に対し国内企業を製造や試験工程に参画させるよう働きかけることで、単なる組立中心の関与から脱却し、より高付加価値な能力の構築へと移行することを目指しています。これにより、中期的に半導体バリューチェーンにおけるベトナムの役割を一段と強化する方針です。

(出展: *TheInvestor*)



続きを読む

9. ホーチミン市における国際金融センター（IFC）を正式開設

ホーチミン市におけるベトナム国際金融センター（VIFC-HCMC）は、2月11日にPham Minh Chinh首相出席のもとで開所式が行われ、正式に発足しました。本件は、既存のダナン拠点と並ぶデュアルハブ戦略の完成を意味するものです。ホーチミン市に設置された同センターは、株式、債券、銀行業務、資産運用分野における大規模なゲートウェイとして設計されており、グローバル資本とベトナム企業を結びつける役割を担います。国際競争力を確保するため、首相は専門裁判所や国際仲裁センターの設置を含む画期的な制度枠組みの整備を求めるとともに、3年以内に少なくとも50の国際金融機関を誘致するよう市当局に指示しました。同センターは、企業が国際資本を調達し、先進的な金融商品やレギュラトリー・サンドボックスを活用してグローバル・バリューチェーンへの統合を一層深めることを可能にする新たな成長エンジンとして位置付けられています。

(出展: TheInvestor)



続きを読む

10. ベトナム、1月の国際観光客数が過去最高を記録

Vietnam National Authority of Tourism (VNAT) によると、ベトナムの観光セクターは2026年1月に約250万人の国際観光客を迎え、月次として過去最高を記録しました。これは前月比21.4%増、前年同月比18.5%増となり、主要な送客市場全体での回復が成長を支えました。地域別ではアジア市場が引き続き主導し、全体の73%以上を占めました。中でも韓国および日本からの訪問者数が力強く増加し、中国は第2位の市場としての地位を維持しました。さらに、ビザ政策の緩和や航空接続の改善を背景に、東南アジアに加えて欧州市場からの訪問者数も大きく拡大しました。加えて、インドも急成長する市場として台頭しており、観光需要の多様化が進んでいることが示されています。VNATは、このような広範な成長が今後の持続的な拡大の強固な基盤になると指摘しており、ベトナムは2026年に国際観光客2,500万人の受入れを目標としています。



続きを読む

(出展: VietnamPlus)

11. グローバルなグリーンビルディングランキングでベトナムが大幅上昇

ベトナムは、米国グリーンビルディング協会（USGBC）が発表した**2025年**の**LEED**認証（米国外）国別ランキングにおいて、世界**28位**から**8位**へと急上昇しました。**2026年2月**に公表された本結果は、わずか**2年間**で**20ランク**上昇したことを示す画期的な成果です。この急速な拡大は、主に産業用不動産、製造施設、商業開発の増加によって牽引されており、多国籍テナントおよび投資家からの**ESG要件**の高まりを反映しています。

LEED認証は、資産価値の向上、グリーンボンドやサステナブルローンといった持続可能な金融へのアクセス改善、ならびに測定可能なパフォーマンス基準を通じたリスク管理の強化を目的として、開発業者の間でますます活用が進んでいます。認証プロジェクトの増加は、ベトナムの不動産およびインフラ分野において、環境配慮型かつパフォーマンス重視の投資へと移行するより広範な潮流を示しています。

(出展: Vietnam Investment Review)



続きを読む

お問い合わせ



Mrs. Trinh Thi Tuyet Anh

Director
Business Development and International Liaison

T +84 28 3910 9170

E anh.trinh@vn.gt.com

LinkedIn: Anh Trinh

Ms. Tran Ha Bao Ngoc

Associate
Business Development

E BaoNgoc.Tran@vn.gt.com

お問い合わせ



仁科 仁

Director / CPA
Japan Desk

T +84 906 719 178
E Nishina.Jin@vn.gt.com



谷口 雅宣

Director / CPA
Japan Desk

T +84 358 177 966
E Masanobu.Taniguchi@vn.gt.com